

「総合的な学習の時間」についての研究

平賀町立柏木小学校 渋川良夫

要 約

小学校新学習指導要領では、総合的な学習の時間が新たに創設されたが、2000年度の調査で、児童が総合的な学習の時間に対して興味・関心を持つとともに好意的に思っていることが分かった。

2001年度の全校での異年齢集団における総合的な学習の時間の授業や記録から、児童は総合的な学習の時間での活動を楽しみ行い、班の中で協力をしながら進んで参加をしていることが分かった。全校での異年齢集団における班の活動は、総合的な学習の時間の中でも意義のあるものといえる。

〔キーワード〕 総合的な学習の時間 異年齢集団 たてわり班

I はじめに

総合的な学習の時間の取り組みについては、先進校である八戸市立白鷗小学校が異年齢集団の活動について地域との関連から取り組んでいる。本校では、1998年までは教科学習を中心とした取り組みを行ってきたが、1999年から校内研修を中心に総合的な学習の時間に取り組んできた。1999年と2000年は主に学級でのテーマ学習を中心にした活動を行ってきたが、2001年は、全校での異年齢集団での活動、一つの学年だけではなく他の学年の児童が混じった、たてわり班での取り組みを行った。たてわり班での活動は、他者とのかかわりから自分のよさに気づくというねらいがある。

ここでは、児童が総合的な学習の時間をどのように思っているかや全校たてわり班活動での授業の実践を通して取り組みについて検討をする。

II 研究の目的

本研究は、総合的な学習の時間についての児童の興味や考え方や異年齢集団での活動であるたてわり班での活動を児童がどのように考えているかを検討する。

そのために、

- 研究1 2000年における児童の総合的な学習の時間についての意識を調査し、どのように総合的な学習の時間を考えているのかを分析・検討する。
- 研究2 2001年の全校でのたてわり班での活動を行う中で、児童がたてわり活動をどのように考えているのかを実際の記録を基に分析・検討する。

III 研究の方法

1 研究1について

2000年度に行った総合的な学習の時間のアンケート調査の結果から検討をする。

図1 総合学習についてのアンケート

「総合学習」についてのアンケート

____年 男・女

1. あなたは、総合学習が好きですか。
(1つだけ ○でかこんでください。)

とても好き ・ まあまあ好き ・ ちょっときらい ・ きらい

2. それは、なぜですか。

3. あなたが総合学習で、できるようになったと思うのは、どんなことですか。
(あてはまるものを、いくつでもかこんでください。)

- ① 話の聞き方
- ② 質問のしかた
- ③ メモのとり方
- ④ 自分の考え・意見の表し方 (書き方・話し方)
- ⑤ 調べたことの書き方
- ⑥ その他

4. 総合学習で、実際にやれたことは、どれですか。
(あてはまるものを、いくつでもかこんでください。)

- ① テーマをえらぶ。
- ② テーマを自分で決める。
- ③ 調べ方 (計画) を考える。
- ④ 自分で調べる。
- ⑤ 調べたことをまとめる。
- ⑥ まとめたことをだれかにつたえる。
- ⑦ つぎのテーマを考える。

5. これから、どんなことを総合学習でやってみたいですか。

- (1) よその国のくらしなどについて
- (2) パソコンなどの情報のこと
- (3) 自分をとりまくまわりの環境のこと
- (4) みんなの幸せなど福祉に関係すること
- (5) 柏木や平賀町など自分の住んでいる場所に関係のあること
- (6) その他

図2 ふりかえりカード

たてわりドリームふりかえりカード

はん	ねん	なまえ
が	に	かつどう

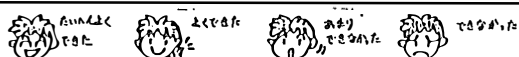
1. きょうのかつどうは、たのしくできましたか。

2. すずんでさんかすることができましたか。

3. はんのひとたちと、なかよくかつどうできましたか。

4. きょうのかんそうをかきましよう。

5. せんせいから



(1) 対象 平賀町立柏木小学校

3 学年	2 4 名 (男子 1 1 名、女子 1 3 名)
4 学年	3 4 名 (男子 2 0 名、女子 1 4 名)
5 学年	3 3 名 (男子 1 4 名、女子 1 9 名)
6 学年	3 5 名 (男子 2 0 名、女子 1 5 名)

(2) 調査期日と方法

① 2 0 0 0 年 1 2 月 「総合学習」についてのアンケート (図1参照) を実施

(3) 資料の取り扱い

項目 1 では、「あなたは、総合学習が好きですか」、項目 2 では「その理由」、項目 3 では「あなたが総合学習で、できるようになったと思うのは、どんなことですか」(複数回答) 項目 4 では、「総合学習で、実際にやれたことはどれですか」(複数回答)、項目 5 では「これから、どんなことを総合学習でやってみたいですか」(複数回答) の回答の人数・割合やその理由について検討する。

2 研究 2 について

総合的な学習の時間として、全校で行っているたてわりドリーム活動の時間における授業実践「動物ワンダーランド」についての児童の考え方をふりかえりカード(図2参照)から検討する。

(1) 対象 平賀町立柏木小学校

4 学年	2 4 名 (男子 1 1 名、女子 1 3 名)
5 学年	3 4 名 (男子 2 0 名、女子 1 4 名)

(2) 調査期日と方法

① 2 0 0 1 年 1 1 月 1 3 日 たてわりドリームふりかえりカードを実施。

(3) 資料の取り扱い

たてわりドリームふりかえりカードは、たてわりドリーム活動後記入をしているが、記入の項目は次に示す通りである。項目 1 では、「きょうのかつどうは、たのしくできましたか」項目 2 は、「すすんでさんかすることができましたか」、項目 3 では「はんのひとたちとなかよくかつどうできましたか」である。4 段階あり活動をふりかえりながら○をつける。項目 4 では、「きょうのかんそうをかきましょう」であり。思ったことを記入している。

項目 1 ～項目 3 までは、回答の人数や割合を、項目 4 では理由について検討する。

IV 結果と考察

1 研究 1 について

児童が総合的な学習の時間についてどのように考えているのかについて

(1) 「総合学習」についてのアンケートについて (表1から表6参照)

表1 総合的な学習がすきかどうか(項目1)

対象者 126名

人数 (%)

学年 回答	とてもすき		まあまあすき		ちょっときらい		きらい		全 体	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
3 年	2 (18)	4 (4)	5 (46)	5 (5)	3 (18)	3 (14)	2 (18)	1 (7)	11 (100)	13 (100)
4 年	3 (15)	2 (2)	14 (70)	12 (12)	3 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (100)	14 (100)
5 年	1 (9)	7 (7)	10 (73)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	3 (18)	0 (0)	14 (100)	19 (100)
6 年	6 (30)	1 (1)	10 (50)	10 (10)	3 (15)	2 (14)	1 (5)	2 (14)	20 (100)	15 (100)
学年男女別	12 (18)	14 (14)	39 (60)	39 (39)	8 (12)	5 (7)	6 (10)	3 (5)	65 (100)	61 (100)
学年合計	26 (21)		78 (62)		13 (10)		9 (7)		126 (100)	

「総合学習」についてのアンケート結果を表1から表6に示した。

項目1「総合学習が好きか」を尋ねた結果から(表1参照)、全体では「とても好き」「まあまあ好き」を合わせると約83%となり、ほとんどの児童が総合学習についてよい印象を持っていることがわかった。しかし、「きらい」と回答した児童も約15%いて、数名があまりよい印象を持っていないことがわかる。これらの児童が学習に興味を示さないと、総合的な学習の時間の活動が活発にならないことも予想される。

表2 項目1の理由(項目2)

項目のみ (自由記述)

人数省略

とてもすき・まあまあすき	ちょっときらい・きらい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本にしたり、模造紙に書いたりするのがすきだから。 ・ 自分で考えた質問とかができるから。 ・ 色々調べて、少し勉強になって少しおもしろいから。 ・ コンピュータでかいたりするのが楽しいから。 ・ 調べるのがすきだから。 ・ 発表したり、メモしたりするのがおもしろいから。 ・ 自分でいろいろなことが考えられるから。 ・ みんなでやるから楽しい。 ・ 自分がわからないことや疑問に思っていることを調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめてたりするのがきらいだから。 ・ 質問を新聞に書いたりするから。 ・ 調べるのは好きだけど、発表がきらいだから。 ・ みんなさわいでまとまらないから。 ・ みんなと計画を立てたり、みんなの前ではなすのがきらいだから。 ・ やりたくないものがいっぱいであるから。 ・ 書くのがめんどくさいから。

項目2「項目1の理由」を尋ねた結果からは(表2参照)、「とても好き・まあまあ好き」では、「本にしたり、書いたりするのがすき」や「調べるのがおもしろい」など総合的な学習の時間のねらいとも関係のある回答をしている児童もいた。

しかし、「ちょっときらい・きらい」と回答した児童の理由は、「質問を書いたりするから」や「書くのがめんどくさい」などの書く作業を好まない児童もみられる。また、「みんながさわいでまとまらないから」などのようにグループでの協力がうまくできないことを理由にしている児童もいる。これは、総合的な学習が個人だけでなく、グループでの作業なども多くありグループでの協力が大切であることも必要なことがわかる。自己中心的に活動している児童にとってはグループ学習がうまくいかない面もみられている。

表3 総合学習でできるようになったことはどんなことか。(項目3)

複数回答		人数 (割合%)			
項 目	3 学年 人数 (割合)	4 学年 人数 (割合)	5 学年 人数 (割合)	6 学年 人数 (割合)	全 体 人数 (割合)
話の聞き方	1 5 (62.5)	1 8 (52.9)	1 5 (45.6)	1 9 (54.3)	6 7 (53.2)
質問の仕方	1 8 (75.0)	6 (17.6)	8 (24.2)	7 (20.0)	3 9 (31.0)
メモのとり方	1 4 (58.3)	2 2 (64.7)	1 3 (39.4)	7 (20.0)	5 6 (44.4)
自分の考え 意見の表し方	6 (25.0)	3 (8.8)	1 0 (30.3)	5 (14.3)	2 4 (19.0)
調べたことの 書き方	1 7 (70.8)	1 5 (44.1)	2 4 (72.7)	1 4 (40.0)	7 0 (55.6)
合 計 件 数	7 0 (291.6)	6 4 (188.1)	7 0 (212.2)	5 2 (148.6)	2 5 6 (203.2)

(実人数 3 学年 24 名 4 学年 34 名 5 学年 33 名 6 学年 35 名)

注：パーセントは対象者に対する割合、小数第二位四捨五入

項目3「総合学習でできるようになったことはどんなことですか」を複数回答してもらった結果は(表3参照)、全体では約55%が「調べたことの書き方が」がわかったが一番多く、総合的な学習では、調べたことをまとめたり書いたりすることが多いことも分かり、児童にそのことが身に付いていることがわかる。

次に多いのが、「話の聞き方」の約53%であるが、発表することを通して自分で聞く態度がしっかり身についていることもわかる。「メモのとり方」についても、約44%の児童ができるようになったと回答しているので、総合的な学習における効果も上がりつつあると考えてもよいと思う。

「質問の仕方」は約39%であるが、表現力を向上させるためにも次年度も継続して行う必要がある。

表4 総合学習で実際にやれたこと(項目4)

項 目	(複数回答)				全 体 人数 (割合)
	3 学年 人数 (割合)	4 学年 人数 (割合)	5 学年 人数 (割合)	6 学年 人数 (割合)	
テーマを選ぶ	11 (45.8)	6 (17.6)	30 (90.9)	10 (28.6)	57 (45.2)
テーマを自分で決める	17 (70.8)	24 (70.6)	26 (78.8)	3 (8.6)	70 (55.6)
調べ方(計画)を考える	3 (12.5)	4 (11.8)	25 (75.8)	15 (42.9)	47 (37.3)
自分で調べる	18 (75.0)	13 (38.2)	25 (75.8)	14 (40.0)	70 (55.6)
調べたことをまとめる	15 (62.5)	13 (38.2)	29 (87.8)	12 (34.3)	69 (54.8)
まとめをだれかにつたえる	1 (41.7)	4 (11.8)	25 (75.8)	10 (28.6)	40 (31.7)
次のテーマを考える	1 (41.7)	1 (2.9)	1 (3.0)	1 (2.9)	4 (3.2)
合 計 件 数	66 (350.0)	65 (191.1)	161 (487.9)	65 (185.9)	357 (283.4)

(実人数 3学年24名 4学年34名 5学年33名 6学年35名)

注：パーセントは対象者に対する割合、小数第二位四捨五入

項目4「総合学習で実際にやれたこと」について複数回答をしてもらったところ(表4参照)、「テーマを自分で決める」や「自分で調べる」が多かった。総合的な学習では、1つのテーマを決めて取り組むテーマ学習があるが、児童が自分で意欲的に取り組んでいることが表から分かる。

本校では、昨年度(2000年)は主に学年を中心に総合的な学習の時間に取り組んだがテーマの決め方も児童にとっては妥当といえるものだったようである。「テーマを選ぶ」についても約45%の児童が実際に行うことができたと回答をしていて、テーマの選別についても主体性がみられつつあるといってもよい。

しかし、「次のテーマを考える」は、約3.2%と低くその場限りではなく、計画を立てておくことの必要性がある。

本校では、総合的な学習の学年ごとの児童の実態を踏まえた年間計画があるので、これから実践を通しながら行っていくことが十分に可能である。特に、1, 2年の生活科と総合的な学習の時間を別々に考えないで連動をさせているところが本校の特色であるといえる。また、教科との関連も重視している。

表5 これから、どんなことを総合学習でやってみたいか(項目5)
(複数回答)

人数(割合%)					
項 目	3 学年 人数(割合)	4 学年 人数(割合)	5 学年 人数(割合)	6 学年 人数(割合)	全 体 人数(割合)
よその国のく らしなど	1 3 (54. 2)	2 4 (70. 6)	1 6 (48. 5)	1 3 (37. 1)	6 6 (52. 4)
パソコンなど の情報	9 (37. 5)	1 3 (38. 2)	2 2 (66. 7)	1 6 (45. 7)	6 0 (47. 6)
自分を取りま くまわりの環 境のこと	7 (29. 2)	1 0 (29. 4)	8 (24. 2)	8 (22. 9)	3 3 (26. 2)
みんなの幸せ など福祉にか んすること	1 0 (41. 7)	9 (26. 4)	9 (27. 2)	5 (14. 3)	3 3 (26. 2)
柏木や平賀町など 自分の住んでいる 場所に関係のある こと	1 5 (62. 5)	1 0 (29. 4)	1 2 (36. 4)	1 2 (34. 3)	8 2 (65. 1)
その他	9 (37. 5)	4 (11. 8)	1 2 (36. 4)	0 (0)	2 5 (19. 8)
合 計 件 数	6 3 (262.6)	7 0 (205.8)	7 9 (239.4)	5 4 (154.3)	2 9 9 (237.3)

(実人数 3 学年 2 4 名 4 学年 3 4 名 5 学年 3 3 名 6 学年 3 5 名)

注：パーセントは対象者に対する割合、小数第二位四捨五入

項目5「これから、どんなことを総合学習でやってみたいか」について複数回答をしてもらったところ、全体としては、「柏木町や平賀町など自分の住んでいる場所に関係のあることが一番多かった。これは、自分たちの身近なところから調べてみようとする児童の意識が働いているようである。

パソコンなどにも興味を示している児童も多く約47.6%の児童がパソコンによる情報を得たいと思っている。

総合的な学習についても、本校では取り組んでからまだ2年目でもあるので、自分たちの地域を知りたいという児童が多いようである。

このことは、総合的な学習を行う時は地域との連携も十分に考えながら進めていくことの大切さも示している。

表6 表5のその他 具体例

項目のみ			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・雪 ・オーロラ ・宇宙 ・地図 ・動物 ・昔のこと ・沖縄 ・山の自然 	<ul style="list-style-type: none"> ・気候 ・虹 ・川 ・うさぎ ・空 ・雨 ・東京 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物のくらし ・気球 ・ゴミ ・インターネット ・めんどり ・富士山 ・外国の食べ物

表5のその他の具体例を表6に示した。**(表6参照)** これをみると児童は色々なことに興味を示していることが分かる。身近なことや外国のことなど幅が広い。「外国の食べ物」などについては、インターネットを使った検索などが必要となるであろう。また、他の教科などとの連携もますます大切なものとなる。

(2) 平成12年度の総合的な学習の取り組みから

平成12年度の学年での取り組みは次のようであった。単元名では、3学年は、「コンピュータとなかよし」「発見わたしたちの町」など身近なところの学習をしていた。

4学年は、「コンピュータとなかよし」「みつめようわたしたちの町 平賀」「荒馬にチャレンジ」など地域の指導者を招聘して地域の伝統芸能の学習も行っていた。

5学年は、「海」「デジタルカメラを使ってみよう」「歴史発見——柏木町」など、ホームページづくりを自分たちの手で行うなど意欲的に取り組んでいた。「海」では2泊3日の宿泊学習の様子からテーマを個人でみつけて取り組んでいた。

6学年は、「修学旅行」「卒業文集を作ろう」などであった。「修学旅行」では、自主見学の計画などを自分たちで計画をして実際に行動を行っていた。「卒業文集を作ろう」では、文章作成ソフトを使って、思い出をまとめていた。

これらは、学級で主に取り組んでいる「テーマ学習」であるが、たてわり班での活動と共通しているところもある。たとえば、6年生の修学旅行における班別活動である自主見学はグループでの協力性を培ったり、自ら進んで参加しようとする意欲にもおおいに関係がある。特に6年生のリーダーとしての活動は、本校における小規模校では学校の活動を左右することも多く見られる。

2 研究2について

(1) 「動物ワンダーランド」の授業について・・・資料1 資料2 資料3 参照

平成13年度は本校では、総合的な学習の時間でも全校でのたてわり班での活動を重視した。それは教育目標である「夢にむかって ねばり強く自ら学ぶ子ども」の育成をめざすためである。

特に、人とかかわりを通して自分をみつめ、自分の夢にむかっていくために児童に問題解決能力の育成や体験活動の重視し教職員の共通理解を図りながら行ってきた。表7は、年間で行っているたてわりドリーム（たてわり班活動）の計画である。

表7 **たてわりドリーム年間計画**

実 施 月 日	実 施 内 容
4月27日	たてわり班組織会
5月 8日	校内ウオークラリーをしよう
6月 5日	校内ボランティアをしよう
7月 3日	七夕の短冊をつくろう
9月 4日	校内ボランティアをしよう（運動会へ向けて）
10月 2日	校内体育祭の練習をしよう
11月 6日	動物ワンダーランドをつくろう
12月11日	たてわり班の発表をしよう
1月29日	ふれあいデーの飾りつけをしよう
2月16日	かしわぎ冬祭りをしよう
2月26日	6年生へプレゼントを作ろう

上の年間計画は、全校児童193名を20のたてわり班に分けてそれぞれの班の班長が中心となりながら活動をしているのである。教職員も班の分担が決められ、必要に応じて支援や指導をしていかなければならないことが多くみられた。

6年生が班長として班をまとめきれないことも多かったりすると、班によって取り組みについての差が出てくることがある。しかし、今年度が最初の取り組みであるので班長のリーダー性の育成は、5年生や4年生を中心に行っていかなければならない。また、班長を支援するために班長を呼んでの事前の打ち合わせなども随時行っているため、班長のリーダー性も徐々に育成されつつある。

11月13日に行った授業である、「動物ワンダーランド」は20の班がそれぞれ班ごとにダンボールで動物を作った。「ぞう」「いのしし」「きりん」「さい」「くま」「ぶた」「カンガルー」「うま」「ペンギン」などに挑戦したが、それぞれの班で工夫をしながら取り組んでいたように思う。

その他の活動についても、年間計画に基づきながら班長が中心になりながら活動を行っていた。

(2)「動物ワンダーランド」の授業後のふりかえりカードについて (表8)

授業後の児童のふりかえりカードを表8に示した。

項目1「きょうのかつどうをたのしくできましたか」では、児童の活動への主体的な態度や活動への興味や関心をみるものである。また、活動への意欲もわかるので総合的な学習の時間の様子を見るためには大事な項目である。

4年生では、「たいへんよくできた」「よくできた」が80%以上あり有意のある差がみられ、意欲的に参加していることがわかる。5年生でも88%あり有意のある差がみられ喜んで活動行っている面みられている。

「あまりできなかった」「できなかった」では、4年生で20%、5年生では12%あり、楽しく活動していない児童も少しいることがわかる。

これは、たてわり班での活動が具体的には今年度から始まったので、児童もまだ慣れない面があるのではないかと考えられる。また、班の中での人間関係があまりうまくいっていない班もあることも、感想の「3年生がうるさかった」などからわかる。学級での総合的な学習の時間とも関係があるので、数名の児童の意欲の喚起が、本校における次年度の課題になるものと思われる。しかし、有意のある差がみられることから、ほとんどの児童が楽しく活動していることがわかる。

項目2「すすんでさんかすることができましたか」は、自分から積極的に物事に取り組みようとする参加への意欲をみる項目である。4年生では、63%あり、5年生では85%であった。項目1と同じように、有意のある差がみられ、児童が活動にすすんで参加していることがわかる。「あまりよくできなかった」や「できなかった」と回答している児童もいるが、これは、活動の内容を良く知らなかったり、たてわり活動にとまどいを感じている児童もいるものと考えられる。

この項目では、有意差がみられるので「すすんでさんかをすることができた」といってもよいであろう。

項目3「はんのひととなかよくできましたか」では、さまざまな体験や人との交流を通して、自己の生き方について知ったり、たてわり班での活動を協力的に行っているかをみる項目である。

5年生では、「たいへんよくできた」「よくできた」を合わせると94%あり有意のある差がみられ、ほとんどの児童がなかよく活動していると考えられる。来年度には、5年生がたてわりは班の班長になるので活動でなかよくしている児童がほとんどなので、リーダーを育成していく上でも大変良い面と考えられる。4年生でも、「たいへんよくできた」「よくできた」を合わせると、5年生よりは%が低いが、63%であり、有意のある差がみられる。

4年生では、班での活動を行う場合、班長との関係がうまくいかずに協力性を発揮できない児童も僅かにいることがわかる。本校における教師の支援の仕方も大切なものになってくる。

しかし、項目3では有意差がみられ「なかよくできた」と考えてもよいであろう。

項目1から項目3までを通してみると、各項目すべてに有意の差がみられ総合的な学習の授業の実践は児童にとっても効果がみられたといってもよいであろう。特に、本校がねらいとしている他者との交流という面から考えると、項目3における結果が5年生で約94%の有意差がみられたことは非常に効果があったことを示している。

5年生は、来年度は本校の中心となるが、リーダーとしての活躍をおおいに期待できるようにも思われる。4年生も約63%あり、決して低くない数値であるといえる。

本校における教師の支援の仕方も、一応の効果がみられていることも見逃すことができないであろう。

さらに、次年度での継続した指導が大事なものとなる。

表8

動物ワンダーランドふりかえりカード(2001年度)

対象者 4学年 24名、5学年 34名

項目	質 問	回 答	人数 (%)					
			4 年		4 年	5 年		5 年
			男子	女子	全体	男子	女子	全体
1	きょうのかつど うは、たのしくで きましたか	たいへんよくで きた	7 (64)	8 (62)	15 (63)	10 (50)	9 (64)	19 (56)
		よくできた	1 (9)	3 (23)	4 (17)	6 (30)	5 (36)	11 (32)
		あまりできなか った	3 (27)	2 (15)	5 (20)	3 (15)	0 (0)	3 (9)
		できなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (5)	0 (0)	1 (3)
2	すすんでさんか することができ ましたか	たいへんよくで きた	4 (36)	7 (54)	11 (46)	9 (45)	9 (64)	18 (53)
		よくできた	4 (36)	4 (31)	8 (34)	7 (35)	4 (29)	11 (32)
		あまりよくでき なかった	3 (28)	2 (15)	5 (20)	2 (10)	1 (7)	3 (9)
		できなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (10)	0 (0)	2 (6)
3	はんのひととな かよくできまし たか	たいへんよくで きた	3 (27)	7 (54)	10 (42)	9 (45)	9 (64)	18 (53)
		よくできた	2 (18)	3 (23)	5 (21)	9 (45)	5 (36)	14 (41)
		あまりよくでき なかった	5 (45)	2 (15)	7 (29)	2 (10)	0 (0)	2 (6)
		できなかった	1 (10)	1 (8)	2 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注：パーセントは小数第一位四捨五入

(かんそう)

4年

- ・少しとまどったが楽しかった
- ・馬がうまくいった
- ・かっこよくできた乗ってみたい
- ・いつもより進んで参加できた
- ・友だちとしっかりできた
- ・予想より大きくできた
- ・楽しくできた
- ・感想発表がしっかりできた
- ・意見がまとまらなかった。
- ・あまりうるさくなかった。

5年

- ・なかよく活動できた
- ・みんなと協力してできたのでよかった
- ・楽しく進んでできた (3)
- ・思ったよりも上手にできた
- ・たくさんの活動ができてよかった
- ・3年生がうるさかった
- ・なかなか合うダンボールがなくて大変だった

V まとめ

総合的な学習については、調査を分析すると次のようになる。(表9参照)

表9 動物ワンダーランドふりかえりカード

対象者：4学年24名、5学年34名

人数(%)

項目	質 問	回 答	4 年		4 年	5 年		5 年
			男子	女子	全体	男子	女子	全体
1	きょうのかつ どうはたのし くできました か	たいへんよくでき た・できた	8 (73)	11 (85)	19 (80)	16 (80)	14 (100)	30 (88)
		あまりできなかつ た・できなかった	3 (27)	2 (15)	5 (20)	4 (20)	0 (0)	4 (12)
2	すすんでさん かすることが できましたか	たいへんよくでき た・できた	8 (72)	11 (85)	19 (80)	16 (80)	13 (93)	29 (85)
		あまりできなかつ た・できなかった	3 (28)	2 (15)	5 (20)	4 (20)	1 (7)	5 (15)
3	はんのひとと なかよくでき ましたか	たいへんよくでき た・できた	5 (45)	10 (77)	15 (63)	18 (90)	14 (100)	32 (94)
		あまりできなかつ た・できなかった	6 (55)	3 (23)	9 (37)	2 (10)	0 (0)	2 (6)

注：パーセントは小数第一位四捨五入

表9をみると、ほとんどの児童が総合的な学習について興味を示している。「活動が楽しくできたか」については、4年生が80%、5年生が88%と有意のある差を示して楽しく活動を行ったことがわかる。

「進んで参加すること」についても、4年生が80%、5年生が85%と有意のある差を示して進んで参加をして学習をしたことがわかる。

「班の人と仲良く」では、4年生は63%であり、5年生は94%もあり有意のある差を示して班の人達との協力がうまくできていることがわかる。特に、5年生が仲良くできているのは、来年度はリーダーになることから明るい材料である。

また、昨年度(2000年)に総合的な学習についての調査を行った結果についても、約83%の3年生以上の児童が「総合学習がとてもすき・まあまあすき」と回答をしていることから児童は、総合的な学習に興味や関心を示していることがはっきりとわかる。

全校たてわり活動について、多くは好んで活動をしているが、班長としては苦勞も多いことがわかる。リーダーとして苦勞したことを列記すると、「班員が自分の言うことを聞いてくれない」「班の人達のおしゃべりが多い」「低学年が世話をしあげないといけない」「自分の言ったことがなかなか班の人に伝わらない」などがある。班のまとまりが大切になるので、教師の支援の仕方も教師が共通理解を図りながら行っていく必要がある。

また、教師側の指導であるが、たてわり活動の教師側の到達基準などを準備しておく必要があるともいえる。これらは、次年度の課題になるであろう。

VI おわりに

総合的な学習の時間における、異年齢集団であるたてわり班での活動は自己のよさに気づいたり、協力性を培うためには重要なものである。本校の児童の総合的な学習についての意識をみる限りにおいては、総合的な学習に興味を持ち始めているともいえる。また、たてわり班での活動

についても楽しく活動をしていることがわかった。

特に、次年度の中心となる4年生や5年生が総合的な学習の時間に対して興味や関心を強く示していることも次年度に向けての好材料といえる。

ふりかえりカードによる自己の反省などについても、項目や記入の仕方などについても、さらに次年度改善をしていく必要がある。

また、総合的な学習の活動を活発化させていくためには、家庭・地域との連携を図っていくことも重要である。

新学習指導要領は平成14年度から完全実施となる。総合的な学習では、児童に身に付けさせたい力をさらに学校で明確にしながら取り組んでいかなければならない。個々の児童を大切にしていくとともに、教師の支援の仕方にも今まで以上に改善が要求されるであろう。

<参考文献>

- | | | |
|-------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 平賀町立柏木小学校要覧 | 2001年 | 平賀町立柏木小学校 |
| 平賀町立柏木小学校 | 平成12年度 研究収録
2000年 | 「柏 葉」
平賀町立柏木小学校 |
| 高浦勝義 | 「総合学習の理論・実践・評価」 | 黎明書房 1999年 |
| 吹貝賢一 | 「研究の進め方 論文の書き方 統計初歩」 | 1998年
弘前大学教育学部 教育実践研究指導センター |
| 渋川良夫 | 「小学校における総合的な学習と教科学習の関連についての研究」 | 弘前大学大学院 修士論文 2001年 |

資料1 たてわりドリーム学習活動案①

全校総合的な学習（たてわりドリーム）学習活動案

日 時 平成13年11月13日（火）5校時
対 象 平賀町立柏木小学校 全児童193名
支援者 平賀町立柏木小学校 全職員

1, 単元名 動物ワンダーランドをつくろう

2, 単元設定の理由

(1)教材について

本単元は、ダンボールを主材料として大きな動物を作ってみようという試みをする。日頃子ども達が身近に接している材料を使いながら、1年生から6年生までの年齢差を活かし、それぞれが自分でできる仕事を分担しながら、大胆に創作活動を展開することができるものと考えている。

(2)児童について

本校は、1学年1クラスであり、学級内においての人間関係は、固定しがちである。そこで、今年度は、2年前から実施していた「たてわり清掃」に加え、学校行事（全校遠足）やドリームタイム（総合的な学習の時間）・柏木タイム等を利用して、できるだけ異年齢間の交流を図り、異なる役割の中から友達のよさを認めたり、自分のよさを見出していけるようにと、活動の場を広げてきた。現在6年生をリーダーに20の縦割り班に分かれて活動している。子ども達は、これまで4月の縦割り班組織会での旗作りに始まって、ウォークラリー・七夕短冊づくり・ドッジボール・ポスター作りを楽しみ、自分たちで計画して校内ボランティアを行うことができた。このような活動の中で、少しずつ子ども達は仲よくなり、それぞれの学年に応じた役割を果たすことができるようになってきている。

本単元では、さらに学年に応じた役割分担の中から、協力する姿・助け合う姿が見られるよう願っている。

(3)指導にあたって

縦割り班での活動に慣れ、6年生のリーダーの成長も見られることから、できるだけ子ども達の計画が実現されるように支援していききたい。特に素材集め・役割分担の際には、事前に班長会を開き、楽しく活動できるよう相談していければと考えている。

本時では、安全面での配慮を十分にし、どの班も時間内に完成できるように支援していきたいと考えている。また、友達のよさに気づいたり、自分の努力や成長を感じたりできるようにそれぞれを認め声をかけていききたいと考えている。

たてわりドリーム学習活動案②

3. 校内研との関わり

総合的な学習の実践的研究を進める中で、今年度定めた総合的な学習のねらいは、次のようなものである。

〔人とのかかわりを通して自分を見つめ、自分の夢にむかってねばりづよく自ら学ぶ子どもの育成を図る。〕

さて、「人との関わり」を重視したドリームタイムの活動の中に、今年度位置付けられた「たてわりドリーム」は、「異年齢集団で、多くの仲間や教師との関わりの中で、人との結びつきを深め、自分のよさに気づかせる。」をねらいとして、年間10時間が計画され実施されている。

また、本校の研修計画の5研究内容のAには、「一人一人のよさを生かし、ねばり強く学び続ける子どもを育てるための評価や支援の在り方」があり、「たてわりドリーム」でも、『ふりかえりカード』を活用した自己評価を取り入れながら、できるだけ多くの方向から子ども一人一人を認めていこうと考えている。

これらのことから、本単元を年間計画の中に位置付け実施することで、研究主題「自らの学びをねばり強く続ける子どもの育成」を図っていけるものと考えている。

4. 単元の目標

縦割り班での創作活動の場で、一人一人が役割を分担したり、ともに協力したりする活動を通して、グループ内の人間関係を深めることができるようにする。

5. 単元の指導計画（全105分）

一次（45分）	11/6（火）5校時	活動場所：体育館
<ul style="list-style-type: none"> 動物ワンダーランドの計画をしよう。 ①動物しりとりをする。 ②ダンボールで作りたい動物を決める。 ③材料の確認をする。 ④設計図をかく。 ⑤制作の役割分担をする。 		担当者：全体指導 山田 1. 2班 須々田 3. 4班 古川 5. 6班 渋谷 7. 8班 渋谷 9. 10班 教頭 11. 12班 須郷 13. 14班 一戸 15. 16班 校長 17. 18班 山本 19. 20班 川村 物品関係 葛西
二次（60分）	11/13（火）5校時（本時）	
<ul style="list-style-type: none"> 協力して動物ワンダーランドをつくろう ①班ごとに、制作する動物名を確認する。 ②協力して制作する。 ③自己評価をする。 ④他グループの作品を鑑賞する。 		

たてわりドリム学習活動案③

6, 本時の計画 (2/2)

(1)本時の目標

ダンボールなどを使って、班ごとに計画した動物を、力を合わせ仲よく作ることができる。

(2)展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（・留意点、配慮など ◎評価）
1, 本時のめあてを知る。	・各自、作業に使う物を持参し、集合。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> なかよく力を合わせて、みんなの動物ワンダーランドをつくろう。 </div>	
2, 各班で、どんな動物をつくるのかを知る。（班長が発表をする。）	・動物名を書いたものを用意させる。
3, 作る時に注意することを聞く。	・安全に対する意識を確かめる。 走らないこと 道具でけがをしないこと まわりをよく見て行動すること など。
4, 各班でなかよく制作する。 ①班長が役割分担を確認する。 ②道具や材料を準備する。 ③手分けして制作する。	・担当の班について、支障なく作業に入れるよう見守る。 ◎なかよく助け合って自分の役割を果たそうとしているか。 ・子どもの活動を認め励ます。 ・力を合わせている様子を見つけたら誉める。 ・なるべく時間内に完成できるよう助言する。
5, 後始末をする。	◎道具、材料などのかたづけ・ごみひろいなどがすすんでできたか。
6, ふりかえりカードに記入する。	・自己評価の時の観点を確認する。 自分でできたこと。友だちに助けてもらったことなどを書こう。
7, 動物ワンダーランドの遊び方・鑑賞の仕方について知る。	・作品を大切にすることを確認する。

(3)評価 班の人たちと、なかよく助け合って計画した動物を作る活動ができたか。

たてわりドリムふりかえりカード

4 はん	5 ねん	なまえ M・K
------	------	---------

1) がつ 13にち

おどろかい 重た物切ワンダラランドを
作ろう!!

1、きょうのかつどうは、たのしくできましたか。

2、すすんでさんかすることができましたか。

3、はんのひとたちと、なかよくかつどうできましたか。

4、きょうのかんそうをかきましょう。

今日は「井」の足のかかりで、タニホールをとりにはった。みんなウーイとキッのびたりるが心西己でして、
わけとさいごに、ちゃんとしめたのでした。
(さいごには、タニホールの山)

5、せんせいから

がんばりましたね。6年生とまじりにして作ったのがうらやまし。絵がうまい。

たてわりドリルームふりかえりカード

8 はん 5 ねん なまえ S・K

11 がつ 13 にち 動物 ^{めどうぶつ} ワンダーランドをつくろう

1. きょうのかつどうは、たのしくできましたか。

2. すずんでさんかすることができましたか。

3. はんのひとたちと、なかよくかつどうできましたか。

4. きょうのかんそうをかきましよう。

一時間のあいだで、あんなにり、は、なカン
が、い、が、できると思ってませんでした。

8 はんのみんな、力を合わせて、がんばろう。パワ
ーのおかげだと思いました。(みんなでたのびました!)

5. せんせいから

本当によくがんばりましたね。8 班のみんなの協力が
あって、こぞできたのですね。紗希さんも本当によく動い
ていましたね。

- ◎ 協力して活動している様子がよくわかる例である。
活動や参加の態度もがんばっていることがよくわかる。
- ◎ 協力的な態度がよく見える例である。絵なども描いてよく説明などをしている。

例3

たてわりドリムふりかえりカード

6 はん

4 ねん

なまえ H・I

11がつ 13にち

かつどうかい どうぶつワンダーランド

1. きょうのかつどうは、たのしくできましたか。

2. すずんでさんかすることができましたか。

3. はんのひとたちと、なかよくかつどうできましたか。

4. きょうのかんそうきをかきましょう。

きょう、しりんを作るときは、はにかあねな
 かったりしたけど、うまくできたから
 よかった。

5. せんせいから

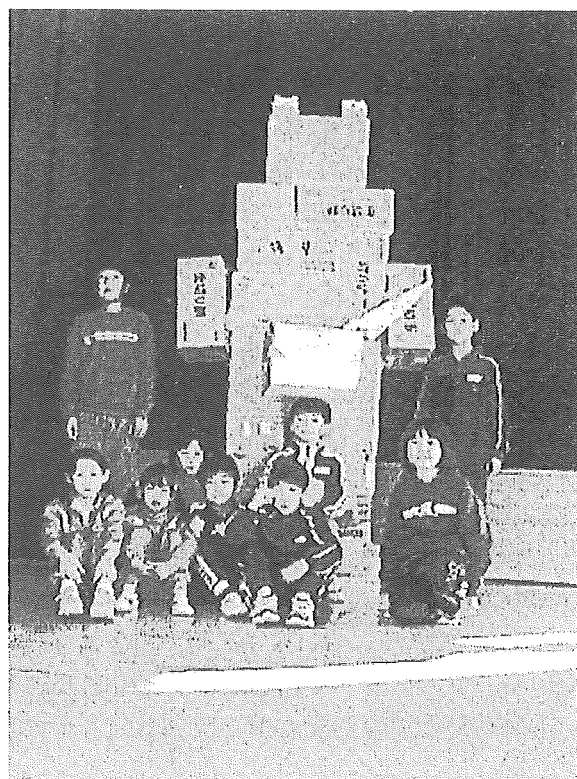
はにかあねりあねなかつたようですが、よくがんばり
 ましたね。

- ⑤ きりんを作ったが、箱があまり合わないで苦勞しているが、協力している様子がよくわかる例である。

資料3 「動物ワンダーランド」授業後の写真①



「動物ワンダーランド」授業後の写真②



「動物ワンダーランド」授業後の写真③

